

授業科目(ナンバリング)	宗教学 (AB204)			担当教員	木村 勝彦		
展開方法	講義	単位数	2 単位	開講年次・時期	2 年・前期	必修・選択	選択
授業のねらい							アクティブ・ラーニングの類型
<p>宗教現象は「聖なるもの」の体験にもとづくという普遍的な構造をもちながら、時代と社会によって特殊かつ独自の仕方でも出現する。この授業では、さまざまな宗教現象をその普遍性と特殊性においてとらえ、宗教と人間の根源的な関わりについて考察する。多様な宗教現象について理解を深め、人間の精神的かつ文化的な営みとしての宗教の意義を正しく認識できるようになることが、この講義の到達目標である。</p>							① ③
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力	宗教学およびそれに関連する学問領域の専門的な学術用語を説明することができる。				・定期試験	10%	
情報収集、分析力	さまざまな宗教現象についての情報を収集し、それらの普遍性及び特殊性の基準・根拠を指摘することができる。				・定期試験 ・課題レポート	10% 20%	
コミュニケーション力	人間の精神文化における宗教の意義について、主体的な意見を提示することができる。				・受講態度・授業への参加度	10%	
協働・課題解決力	自らの専攻する学問分野の問題に関連づけて、日常生活のなかでの宗教をめぐる具体的な課題の解決に寄与することができる。				・課題レポート	10%	
多様性理解力	多様な宗教現象のもつ普遍性と特殊性を理解し、宗教が時代や社会によって異なる価値観の根拠となっていることを考えることができる。				・定期試験	40%	
出席					受験要件		
合計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
<p>評価は定期試験 60%、課題レポート 30%、授業態度・授業参加 10%の配分で行う。定期試験は筆記試験により行い、宗教学の専門用語の的確な説明と宗教現象に関する理解度を評価基準とする。課題レポートは課題への取り組み方と内容、授業態度・授業参加はレポート提出状況によって評価する。なお、フィードバックは授業のなかで適宜行う。</p>							
授業の概要							
<p>この授業では、講義内容をまとめたプリントを毎回配布し、重要な語句や関連する映像資料等をパワーポイントによって提示しながら解説する。また授業の最初には、課題レポートの解答を示し、内容に関する説明を行う。</p> <p>この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、180分とする。</p>							
教科書・参考書							
<p>教科書：特に指定しない。</p> <p>参考書：棚次正和・山中弘編『宗教学入門』ミネルヴァ書房</p> <p>指定図書：山中弘編『宗教とツーリズム』世界思想社</p>							
授業外における学修及び学生に期待すること							
<p>いかなる専攻分野であれ、それぞれの研究を深めて有意義なものとするためには、宗教や文化の独自性に関する理解が不可欠である。世界のさまざまな宗教や文化に対する積極的な関心をもって授業に臨み、宗教現象の独自の意味を理解するための柔軟な思考を養う契機として欲しい。また書籍・新聞・雑誌や映像作品等を通して、国内外の宗教・文化について幅広く情報を得るように努めることを期待する。意欲的かつ真摯な学習態度を要求する。授業中の私語や理由のない遅刻・途中退席は禁止する。</p>							

回	テーマ	授業の内容	予習・復習
1	導入	講義全体への導入として、宗教学とはどのような学問であり、宗教に関してどのような理解を目指しているのかを概説する。	宗教学の成立に関する学術用語の整理・復習 宗教の分類の予習
2	創唱宗教と自然宗教	ある社会のなかで自然に成立した自然宗教と、教祖の宗教体験に基づく創唱宗教の違いについて概説し、教祖とはどのような存在かについて考察する。	宗教の分類に関する先行研究の整理・復習 アニミズムの予習
3	アニミズムとシャーマニズム	万物に生命をみるアニミズムと、シャーマンに憑依した霊的なものとの交流を図るシャーマニズムなどについて考察する。	アニミズムやシャーマニズムに関する整理・復習 メソポタミアの宗教の予習
4	古代メソポタミアおよびエジプトの宗教	古代メソポタミアおよびエジプトの神話や儀礼などを通して、多神教の神観・世界観がどのようなものであったのかについて考察する。	メソポタミアやエジプトの宗教に関する整理・復習 ヒンドゥー教の予習
5	ヒンドゥー教	無数の神々に対する信仰を含み、インドはもとより南アジア帯に多くの信者を擁するヒンドゥー教の神観・世界観について考察する。	ヒンドゥー教に関する整理・復習 ユダヤ教の予習
6	ユダヤ教	民族宗教でありながら唯一神信仰の起源として、キリスト教・イスラム教という世界宗教の母体となったユダヤ教の神観・世界観を考察する。	ユダヤ教に関する整理・復習 キリスト教の予習
7	キリスト教	世界宗教の一つであるキリスト教について、イエス・キリストの宗教体験と教えはいかなるものかを検討し、教義の確立および教会の形成過程を考察する。	キリスト教に関する整理・復習 イスラム教の予習
8	イスラム教	世界宗教の一つであるイスラム教について、ムハンマドの宗教体験と教えはいかなるものかを検討し、教義の確立およびウンマの形成過程を考察する。	イスラム教に関する整理・復習 仏教の予習
9	仏教	世界宗教の一つである仏教について、ゴータマ・ブッダの宗教体験と教えはいかなるものかを検討し、教義の確立とサンガ（僧伽）の形成過程を考察する。	仏教に関する整理・復習 日本のカミ崇拜と仏教伝来の予習
10	日本宗教史Ⅰ カミ崇拜と仏教伝来	日本古来のカミ崇拜と仏教伝来、天台宗と真言宗の成立について述べ、神仏習合という日本宗教史にとって決定的な事態が生じた経緯を考察する。	カミ崇拜と仏教伝来に関する整理・復習 鎌倉新仏教の予習
11	日本宗教史Ⅱ 鎌倉新仏教の展開	民衆の救済を目指して沸き起こってきた鎌倉新仏教の開祖たち（法然、親鸞、一遍、栄西、道元、日蓮）の独自の宗教体験と教えについて考察する。	鎌倉新仏教に関する整理・復習 近代化と国家神道の予習
12	日本宗教史Ⅲ 近代化と国家神道	明治維新における神仏分離政策と国家神道の成立過程を概観し、近代化のなかで成立してきたさまざまな民衆宗教の運動について考察する。	近代化と国家神道に関する整理・復習 宗教ブームの予習
13	日本宗教史Ⅳ 社会変動と宗教ブーム	社会変動が宗教ブームと密接に関連していることを、特に第二次世界大戦後の日本におけるさまざま「新宗教」教団の成立をてがかりとして考察する。	社会変動と宗教ブームに関する整理・復習 儀礼・修行・巡礼の予習
14	儀礼・修行・巡礼	宗教現象を理解するための手がかりとして、儀礼・修行・巡礼という三つの基本概念を取り上げ、さまざまな宗教伝統におけるその具体的な現われを考察する。	儀礼・修行・巡礼に関する整理・復習 祭りの予習
15	祭りとは何か	宗教現象を理解するための手がかりとして、祭りの問題を取り上げ、さまざまな宗教伝統におけるその具体的な現われを考察しつつ、講義全体のまとめを行う。	講義全体の振り返りと、宗教の普遍性・特殊性に関する自己認識の省察
16	定期試験	筆記試験	筆記試験の準備